

# 勝林寺々報

「お正信偈」とは

一人の若い兵士が片うでをもぎとられ、満足な手当ても受けられないまま死んでいきました。

こわいから残つた片方の手を放さないでにぎつておいてくれとせがみます。しかしだんだん衰弱がひどくなると、せがむ力もなくなつて、今度は

私に「お経」をあげてくれと申します。

私は、彼の耳もとで「お正信偈」をあげました。すると彼は、なつかしそうに「あゝ、うちの家も帰命無量や。」といいました。

その若い兵隊さんは、終戦間近い日の夜明けがた、「お正信偈」さまのなかでなくなりました。

「お正信偈」は、淨土真宗の私たちにとつていちばん大切なおつとめです。

それは、私の命の帰りつくところ、いのちの依り所を示してくださいお聖教だからです。

にもかゝわらず私たち、「お正信偈」を、そ

れぞれ我身勝手に合点して、おおよそ「お正信偈」のおところとは、遠くかけはなれだおつとめの仕方をしているのではないかと思います。

他の宗教で行なわれている「お祈り」と同じような心で「お正信偈」をあげていませんか。

また、子育てのために「正信偈」をあげる親の姿を見せるべきだと、そのため励んでおられる方はありませんか。

なおまた、亡くなつた方を葬つたり慰めたりお供養したりするために読んでいる場合もないでしょうか。

さらにまた、そんな目的は何もないが、これはご祖先から伝えられた淨土真宗門徒のシンボ

ル（しるし）ぐらいたに考えて、形式的習慣的にあげている人も多かるうと思ひます。

「正信偈」は親鸞聖人のお書きになつた「顕淨

土真実教行証文類」という六巻のお書物のなかにうたわれている「いのちのうた」です。

この本は、時の天皇や、そのとりまきの権力者たちからひどい弾圧を受けて、京都を追い出され

た親鸞さまが、関東の所々方々を農民とともに流浪しながら、そのギリギリに追いつめられながらも、それでもそのなかでみごとに生き、みごとに死んでいざる「いのちのありよう」を求め、そして

よろこび、人にすすめるためにつくられた「うた」がこの「正信偈」でした。

だから「正信偈」は次はことばで始まります。

「帰命無量寿如來」

わたしのこのいのちに、いまもはたらきつとけてくださる、かぎりなき如來のいのちに生

きかえさせていたゞきます。

そして最後のおとばは次のようです。

〔道俗時衆共同心

唯可信斯高僧説レ

今この時代に生きなければならない者だ

れどだれも、共に手をたずさえて、  
ただこの高僧がたのみ教えを、聞いて信じてゆこうではありませんか。

〔道俗時衆共同心

「お正信偈」は、どうやら單なる神だのみの祈

りのことばではないようです。まして子育ての効能をねらつて称えるものでもないよ

うです。  
死者へのお供養のためにあげるものでもないよ

うです。  
まことに、そのよりどころを聞いてゆくためのものようです。

次号から、少しづつ、「お正信偈」を聞いてゆ

## 勝林寺こども会 本山参拝研修旅行



毎年行なっています「ご本山参拝研修旅行」というかたちで行ないます。母とこどもとで楽しい旅行に参加してください。

一日 二日 三日 四日 五日

一日 出石町斎木さの様葬儀  
出石町坪口中島とみ様葬儀

月 行事

一日 出石町斎木さの様葬儀  
出石町坪口中島とみ様葬儀

九日

勝林寺仏婦総会

会議後ご本山伝道部長北島先生のご法

話を聞いた。今年は矢根婦人会の当番

で心のこもつたおときを頂きました。

出石組連合仏婦総会

会場は福成寺。勝林寺住職の「同朋講

座」と大阪教区教務所長有馬誠哉先生

の講話を聞いた。吉川兵庫教区教務所

長より連合仏婦に役員として永年貢献

した森戸初枝様等三人に表彰状がおく

られた。

十一日

勝林寺仏婦総会

会議後ご本山伝道部長北島先生のご法

話を聞いた。今年は矢根婦人会の当番

で心のこもつたおときを頂きました。

出石組連合仏婦総会

会場は福成寺。勝林寺住職の「同朋講

座」と大阪教区教務所長有馬誠哉先生

の講話を聞いた。吉川兵庫教区教務所

長より連合仏婦に役員として永年貢献

した森戸初枝様等三人に表彰状がおく

られた。

申込

予納金千円を添えて至

急

空席あります。満席になり

次第締めります)

費用

子供 三千円

大人 四千円

上小田発(6時)→寒坂(6時10分)→出石勝林寺発(6時30分)

矢根(市場)→出合発(6時45分)→

小谷(正法寺)→栗尾(佐田)(7時)

京都本山着(10時)

総御堂参拝

本山書院参観

星食(お弁当は各自持参)

本山発(12時)→大谷本廟参拝(後1時発)→京都動物園見学・動物園発(後4時)→出石着(7時半)→上小田着(後8時)

十九日

但馬五組仏婦研修会

豊岡市信楽寺にてご本山門信徒会迎動

本部員鶴山誦住先生の「宗門の運動に

ついて」の講話を聞いた。勝林寺

仏婦から十名参加。

建築委員・推進委員・仏社仏婦役員参列

して無事完成を見たよろこびのうちに式

をつとめた。

二十五日

本堂大起根落成奉告法要

関係工事施工業者・門徒総代・代講員・

建築委員・推進委員・仏社仏婦役員参列

して無事完成を見たよろこびのうちに式

をつとめた。

十六日

但馬五組仏婦研修会

豊岡市信楽寺にてご本山門信徒会迎動

本部員鶴山誦住先生の「宗門の運動に

ついて」の講話を聞いた。勝林寺

仏婦から十名参加。

建築委員・推進委員・仏社仏婦役員参列

して無事完成を見たよろこびのうちに式

をつとめた。

十七日

但馬五組仏婦研修会

豊岡市信楽寺にてご本山門信徒会迎動

本部員鶴山誦住先生の「宗門の運動に

ついて」の講話を聞いた。勝林寺

仏婦から十名参加。

建築委員・推進委員・仏社仏婦役員参列

して無事完成を見たよろこびのうちに式

をつとめた。

十八日

但馬五組仏婦研修会

豊岡市信楽寺にてご本山門信徒会迎動

本部員鶴山誦住先生の「宗門の運動に

ついて」の講話を聞いた。勝林寺

仏婦から十名参加。

建築委員・推進委員・仏社仏婦役員参列

して無事完成を見たよろこびのうちに式

をつとめた。

十九日

但馬五組仏婦研修会

豊岡市信楽寺にてご本山門信徒会迎動

本部員鶴山誦住先生の「宗門の運動に

ついて」の講話を聞いた。勝林寺

仏婦から十名参加。

建築委員・推進委員・仏社仏婦役員参列

して無事完成を見たよろこびのうちに式

をつとめた。

二十日

但馬五組仏婦研修会

豊岡市信楽寺にてご本山門信徒会迎動

本部員鶴山誦住先生の「宗門の運動に

ついて」の講話を聞いた。勝林寺

仏婦から十名参加。

建築委員・推進委員・仏社仏婦役員参列

して無事完成を見たよろこびのうちに式

をつとめた。

二十一日

但馬五組仏婦研修会

豊岡市信楽寺にてご本山門信徒会迎動

本部員鶴山誦住先生の「宗門の運動に

ついて」の講話を聞いた。勝林寺

仏婦から十名参加。

建築委員・推進委員・仏社仏婦役員参列

して無事完成を見たよろこびのうちに式

をつとめた。

二十二日

但馬五組仏婦研修会

豊岡市信楽寺にてご本山門信徒会迎動

本部員鶴山誦住先生の「宗門の運動に

ついて」の講話を聞いた。勝林寺

仏婦から十名参加。

建築委員・推進委員・仏社仏婦役員参列

して無事完成を見たよろこびのうちに式

をつとめた。

二十三日

但馬五組仏婦研修会

豊岡市信楽寺にてご本山門信徒会迎動

本部員鶴山誦住先生の「宗門の運動に

ついて」の講話を聞いた。勝林寺

仏婦から十名参加。

建築委員・推進委員・仏社仏婦役員参列

して無事完成を見たよろこびのうちに式

をつとめた。

二十四日

但馬五組仏婦研修会

豊岡市信楽寺にてご本山門信徒会迎動

本部員鶴山誦住先生の「宗門の運動に

ついて」の講話を聞いた。勝林寺

仏婦から十名参加。

「お盆」のおこり

「盆」という行事は、もともと三つの別々のことからが結びついて出来た仏教行事です。

まずその一つは「夏安居」または「安居」とよばれていた仏弟子たちの研修会・修行会です。

インドでは雨期が長い。しかもこの長い雨期はいわば虫の季節です。いろいろな虫が繁殖します。

そのような時に、外に出て歩きまわると、気づかない間に小さな虫を殺すかもしれません。

どんな虫にも生命があります。そしてその生命のなかで、仏様のおみのりが開けるかもしれない大事ないのちを生きているのです。

ものいのちを奪うことは、仏の道を行く仏教徒にとっては、いちばんしてはならないことです。

そこで仏弟子たちは、お釈迦様といつよに、毎年四月十五日（または五月十五日）から三ヶ月間、寺に集りこもつて学問をし修行したのです。お釈迦様の当時から、この「安居」は各宗派で行なわれています。

今年に私も二週間ご本山で行なわれる安居に出

させていただいたわけです。

とくに、この三ヶ月にわたる夏季研修会の最後の日は、「自恣」（ジシ）といつてそれぞれみずから、自分の罪を反省する日としてお釈迦さまは定めておかれたのです。

次に第二番目のことばは、もと「アバラムバナ」ということばがなまつて出来たことばです。

「アバラムバナ」というのは、「さかさにつるさ�行です。

「死」ぬるということは、さかさづりのような苦しみです。

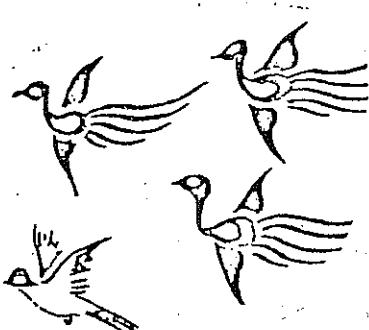
元気でいる今も、その死の苦しみを見つめて生き

ねばなりません」という教えなのです。その教えが後に形式化して、さかさづりのように苦しみのなかにあるであろう亡き人のためにお供養さしてもらおうという行事になつたのです。

この「ウランバナ」の行事と、丁度びつたりと結びついたのが次の目蓮という人の話です。

もしまだこのたび

八月 二 よみ



目蓮（マウドガリヤーヤナ）はお釈迦様のお弟子のなかで神通力の最もすぐれた人でした。彼はその神通力でもつて今は亡き母の行方をたずねてみました。

母は餓鬼道に墮ちていきました。

目蓮は丁度「自恣」の日（七月十五日または八月十五日）に、お釈迦様はじめたくさんの仏弟子たちに供養しました。目蓮のお母さんはその功德によつて餓鬼道から出ることができました。

「ウラボン経」というお経に出てゐる話です。

以上三つのことがらは、もともと別々なものであつたのですが、それがいつとはなしに結び合わされ、結び合わされるなかから今日の「お盆」の行事も生まれてきたのです。

従つてこうして出来あがつた「お盆」という行事は、

「亡き祖先をご縁として、ひつくりがえつたようなくらし方をして、自分を見つめかづ、やがて必ずおとずれる死を見つめてみよう」と勤める真剣な仏教行事

ということになるはずです。

「お盆」という行事の成り立ちを聞くなかで、私も何かを思いみさせていただきたいものです。

「お盆」の意味を尋ねるとき、お母さんは

折角、人間に生れても、お念仏に会えずに死んでいたら、また今まで迷の世界に流転しなければならぬかわかりません。おそろしいことです。

折角お念仏に会える人間に生まれてきたのにその人をお念仏を聞かせずに殺してしまつたなら、これほど恐ろしい罪はないのです。

もののいのちを奪つてはいけないというのは、そういう恐ろしい罪業をいつてゐるのです。

戦争は、どんなに正当づけられようと、人の生命を奪うという一点だけで、すべて許されない罪悪です。

人は、お念仏のなかで如来の永遠の生命に生きられる機会をこの人生だけにもつてゐるので

しから。

原爆記念日が来ます。

私たち、お念仏によびさまされて生きる者は世の運動とはまた違つた思いから、この問題を深刻に考えてみなければなりません。

一日 数森弘道氏宅法事・平野秀雄氏宅法事

二日・四日 カウンセリング研修会（長野県）

四日 出石組住職会

五日 出石組仏社連盟役員会

六日 加古川水上氏法事

七日 正法寺道場追悼会・山田恵一氏宅初弔

八日 成田捷明氏宅祥弔

九日 山田博文氏宅初弔

十日 前住職初弔

十三日 出石町盆参り・南敬貴氏宅初弔

十四日 中島武志氏・湯口勇雄氏・石田隆雄氏宅初弔・福富操氏宅法事

十五日 成田捷明氏宅初弔

十六日 中島登美男氏宅法事・斎木義信氏宅忌明

十七日 大月忠男氏宅法事

十八日 田中幸一氏宅法事

十九日 勝林寺子供会本山参拝研修旅行

二十日 神戸東矢忠郎氏宅法事

二十二日 福富修氏宅法事

二十三日 前々住職祥月

二十五日 「みのりを開く会」

二十八日 中島明美氏宅忌明

二十九日 岡山・プロック仏社研修会講師出張

後継住職（若院・西池功）が七月三十日、前門主様に単独ご面接を賜りました。サンスクリット・チベット語による根本仏教研究に対して年度に一人研究奨学指定をくださるためのご面接でした。一年後、ご門主様・前門主様に対して、研究発表報告を申しあげることになつております。